

千倉協事務局からのお知らせ

(314)

TEL: 043-307-4760 FAX: 043-305-4930

令和8年10月22日

千葉県倉庫協会事務局

《今月号の記事》

1. 倉庫業務基礎研修の開催
2. 生成AI活用ワークショップ研修の開催
3. 第57回倉友会開催（袖ヶ浦カンツリー倶楽部・新袖コースにて）
4. 令和8年度第1回品目別部会・全体会議、及び講演会の開催
5. 倉庫業の自主監査のお願い（11月・12月は自主監査月間です）
6. 今後の行事予定
7. 令和8年度第1回品目別部会各部会発表内容について

- ☆ 研修・セミナーの案内等はeメール・電話等により請求いただければ、再送いたします。
- ☆ このお知らせは各会員の連絡担当者の方に配布しております。皆様にご覧になれるようご配慮をお願いいたします。
- ☆ 異動等で連絡担当者に変更になる場合及びメールアドレスが変更になる場合には、ご連絡をお願いいたします。
- ☆ 関倉連5協会とは、茨城、群馬、栃木、山梨と千葉県倉庫協会です。
6協会とは東京倉庫協会を加え、7協会とは神奈川倉庫協会を加えます。

1. 倉庫業務基礎研修の開催

日 時	10月13日（火）13時～17時（1回目） 10月28日（水）13時～17時（2回目）
場 所	東陽パークビル6F 会議室
講 師	G I N Z Aコンサルティング(株) 講師 山崎 敬司 氏
研修内容	この研修は、倉庫業の基本から、受託・入庫・保管・出庫業務、料金の計算方法等、新入社員をはじめとする倉庫業務未経験者に必要な倉庫業務の知識を習得していただきました。 (千葉からの参加は10/13 4名、10/28 8名)

2. 生成AI活用ワークショップ研修

日 時	11月5日（水）13時～17時
場 所	東陽パークビル6F 大会議室 東京都江東区東陽 5-29-17
講 師	(株)N X 総合研究所 AI/D X戦略コンサルタント 宮里 隆司氏
研修内容	この研修は、物流おも巻き込む「AI産業革命」が進行するなか、Chat GPTのような最新の生成AIを物流業務へ効果的に使うための具体策を習得する研修でした。 (千葉からの参加は 7名)

3. 第57回倉友会開催（袖ヶ浦カントリー倶楽部・新袖コースにて）

倉友会は10月21日（水）袖ヶ浦カントリー倶楽部・新袖コースにおいて開催されました。8組31名の方々により行われました。第57回倉友会の優勝は、岸本健治様（NRS株式会社）でした。ご参加の皆さんありがとうございました。
会員の皆様、各賞用意しておりますので、次回の倉友会には是非ご参加をお願いいたします。

4. 令和8年度第1回品目別部会・全体会議及び講演会の開催

日 時	10月8日（水）15：30～17：00
場 所	ホテルグリーンタワー幕張

4分会の会議には55名の方が参加いたしました。
様々な意見交換を行い有意義な会議となりました。
また、講演会については外国人雇用制度が4月から改正される、改正内容の説明を日本倉庫協会より、外国人採用についての留意点や支援内容等をSOUホールディングス様より講演をして頂き、大変、参考になった講演会でした。
第2回を3月に予定していますので、是非、ご参加をお願いいたします。

5. 倉庫業の自主監査のお願い：11月・12月は自主監査月間です

10月20日付け倉庫管理指導委員会 長尾委員長からの文書により、11月から12月の2カ月間を自主監査の実施期間とし、会員の皆様方に監査計画と監査票等を送付しております。今年も倉庫管理主任者は、監査票により自主監査を行い、「自主監査結果の概要報告書」に取りまとめていただき、令和9年1月29日までに、協会事務局まで報告をお願いいたします。

この制度は、平成14年に倉庫業法の事業許可制が登録制に規制緩和されたことに伴い、規制緩和の代償として、自己責任での事故防止を目的として、日倉協が音頭を取り、国土交通省の指導を受けながら実施することとしたものです。

倉庫（業）の不具合は、改めて点検して見ないと分からないものもありますので、この機会に自主点検を行い、不具合が発見された場合には、早急に改善するなど事故防止に努めるようお願いいたします。

結果概要報告書を提出いただいた会員の方には、報告書の（2）に記載された営業所数分について、「倉庫監査実施済証」（日本倉庫協会発行）を送付いたします。

～結果概要報告書を令和9年1月29日までに、事務局に報告下さい～

6. 今後の行事予定

11月 4日(水)	新社員のための物流入門講座(東陽パークビル)
11月17日(火)	倉庫管理主任者講習会(全日通霞が関ビル)
11月18日(水)	倉庫業務フォローアップ研修(東陽パークビル)
11月25日(水)	倉庫管理主任者フォローアップ研修(東陽パークビル)
12月1日~2日	倉庫業務改善管理者研修(東陽パークビル)
12月 3日(水)	第3回総務委員会・第229回理事会
1月19日(火)	倉庫法令実務専門研修(東陽パークビル)
1月20日(水)	プロジェクトマネジメント入門研修(東陽パークビル)
1月20日(水)	午後 賀詞交歓会(ホテルグリーンタワー幕張)
2月 3日(水)	安全管理実務講習会(東陽パークビル)

7. 令和8年度第1回品目別部会 各部会発表内容について

A. 【穀肥・食料品部会 報告】

本日の穀肥・食料品部会は、12社14名が参加されました。

1 米穀関係

(1) 令和8年6月末現在の在庫状況等

ア 米 21,230 トン(前年同期 29,755 トン、▲8,525 トン減少、71.3%)

イ 令和8年4月~6月の3ヶ月平均

- | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------|-------------|
| ① 入庫動向 | 5,807 トン | 前年同期 | 7,682 トン | ▲1,875 トン減少 |
| ② 出庫動向 | 8,241 トン | 前年同期 | 8,593 トン | ▲352 トン減少 |
| ③ 残高動向 | 24,227 トン | 前年同期 | 29,587 トン | ▲5,360 トン減少 |

(2) 会員各社の現況と課題

ア 現況

- ・ 備蓄米放出の影響で7年産の動きが悪く在庫が多い。収穫前にJA倉庫の空きを作るため集約保管で営業倉庫に入庫した。
- ・ 8年産の新米は長雨で刈取りが遅れ集荷が遅れている。倒伏して発芽したため刈り取らない放棄した田んぼが見受けられる。
- ・ 8年産備蓄米の入庫が始まっている。
- ・ 政府米の保管料計算方法が、期末在庫から一般的な積数方式に改善された。

イ 課題

- ・ MA米の保管料は、本船が入港して倉庫に入庫され通関が終わり検収されるまで荷主は輸入商社です。検収後は政府米になり農水省から委託された受託事業体の管理となります。保

管料は農水省と商社は契約で単価が設定されていますが、農水省と受託事業体は入札で決まるため、しわ寄せが末端の営業倉庫にきて保管料が商社より約 20%の引き下げとなっています。

同一の貨物で保管料が不当に下がることは制度に問題があると考えます、協会を通じて改善していただきたい。

2 麦関係

(1) 令和 8 年 6 月末現在の在庫状況等

ア 麦 170,646 トン（前年同期 166,080 トン、4,566 トン増加、102.7%）

イ 令和 8 年 4 月～6 月の 3 ヶ月平均

- ① 入庫動向 80,043 トン、前年同期 93,841 トン ▲13,798 トン減少
- ② 出庫動向 86,588 トン、前年同期 87,191 トン ▲603 トン減少
- ③ 残高動向 164,799 トン、前年同期 166,449 トン ▲1,650 トン減少

(2) 会員各社の現況と課題

ア 現況

- ・サイロが来年で 60 年になる。修繕が工事業者の人出不足で遅れている。
- ・ダスト問題は、処理が進み解決した。

イ 課題

- ・サイロ業界は、設備の老朽化で国に対策を考えてもらいたい。
- ・千葉豪雨のように警報が発令された場合の出社基準を社内で整理していきたい。

3 飲料関係

(1) 令和 8 年 6 月末現在の在庫状況等

ア 飲料 74,414 トン（前年同期 73,201 トン、1,213 トン増加、101.7%）

イ 令和 8 年 4 月～6 月の 3 ヶ月平均

- ① 入庫動向 117,597 トン、前年同期 133,934 トン ▲16,337 トン減少
- ② 出庫動向 114,904 トン、前年同期 130,436 トン ▲15,532 トン減少
- ③ 残高動向 70,276 トン、前年同期 75,462 トン ▲5,186 トン減少

(2) 会員各社の現況と課題

ア 現況

- ・焼酎は値上げ前の需要が多く動いたが現在は落ち着いた。
- ・7 月から備蓄生産で需要に対応した。前年 115%の出荷で在庫は 125%となっている。
- ・備蓄用保管食品が熊本方面の需要が多く増加した。

イ 課題

- ・消費地に近い工場で生産するため移転している。
- ・倉庫が老朽化している。

4 缶詰・びん詰

((1) 令和8年6月末現在の在庫状況等

ア 缶詰・びん詰 5,284 トン（前年同期 5,592 トン、▲308 トン減少、94.5%）

イ 令和8年4月～6月の3ヶ月平均

- ① 入庫動向 2,747 トン、前年同期 3,137 トン ▲390 トン減少
- ② 出庫動向 2,861 トン、前年同期 3,014 トン ▲153 トン減少
- ③ 残高動向 5,318 トン、前年同期 5,203 トン 115 トン増加

((2) 会員各社の現況と課題

ア 現況

- ・ 8～9月は好調で9月決算は微増でした。
- ・ 冷蔵倉庫は満床になっている。

B. 【原材料部会 報告】

原材料部会は、加盟5店社7名により、「鉄鋼、非鉄金属、石炭・石油コークス、木材」の各分野について、動向を確認いたしました。

1. 木材事業について

木材事業においては、木造化・木質化の推進を背景とした需要拡大により、取扱数量は前年同期を上回る水準で推移しました。一方で、エネルギー価格や物流コストの上昇、為替変動、長雨や台風などの気象要因による物流への影響など、事業環境は依然として不透明な状況が続いている。

また、木材業界では、物流の効率化と安定供給体制の強化を目的とした物流改革が進められており、輸送ネットワークの再構築や配送効率の向上、国産材活用の拡大などの取り組みが進展している。各社においても、こうした業界動向を踏まえ、安定供給体制の維持と物流品質のさらなる向上に取り組んでいる。

今後も市場動向や需給環境の変化を注視しながら、国際材利用の拡大と収益向上の両立を図り、持続的な事業成長に務める。

2. 輸入合板について

2026年の輸入合板市場における倉庫・保管環境は、大きな転換期を迎えている。上半期の関東圏では、入庫超過と需要低迷を背景として慢性的な保管スペース不足が発生した。一方、倉庫内在庫は高水準を維持しているものの、引き合いの強い特定商材では品薄感がみられるなど「需給のみだれ」による保管効率の低下が続いた。

これに対し、地方港では入出荷ともに低調に推移し、在庫水準にも底打ちの兆しがみられるなど、地域間で需給動向に大きな差が生じている。

下半期に向けては、国内在庫の減少に加え、国産針葉樹合板の値上げ浸透を背景とした先高観から、買い付け需要の活発化が見込まれる。これに伴い、これまで停滞していた倉庫内の荷動きや在庫回転率についても、徐々に改善へ向かうことが期待される。

3. 鉄鋼事業について

鉄鋼事業においては、国内メーカーの安定した生産体制に加え、アンチダンピング措置を背景とした国内材需要の回復もあり、概ね堅調に推移した。一方で物流コストや労務費の上昇、輸送体制の逼迫、気象要因による物流リスクなど、事業運営上の課題も顕在化している、

また、メーカー各社においては、物流の効率化やサプライチェーンの最適化を目的とした物流改革進められており、輸送体制の見直しや物流拠点の再編などの取り組みが進展している。各社においても、こうした変化に適切に対応しながら安定供給体制の維持に努めていく。

下半期においても、市場環境の変化や各種コスト上昇への対応が求められることから、訂正な価格転嫁と安定供給の両立を図りながら、収益基盤の強化に取り組んでいく。

4. 総 括

木材・鉄鋼の両事業においては、需要動向は堅調に推移したものの、原材料価格や物流費の高止まり、為替変動、長雨・台風等の気象リスクなど、不透明な事業環境が継続している。

また、両業界において物流改革やサプライチェーンの再構築が進められており、物流効率化、人手不足への対応、安定供給体制の強化が共通の重要課題となっている。各社としても、メーカーや取引先との連携を強化しながら物流機能の維持・向上に取り組み、変化する事業環境への対応力を高めていくことが重要と考えている。

今後も国内外の市場動向や政策・制度変更の影響を注視しつつ、安定供給体制の維持と適正な収益確保に努めるとともに、環境変化に柔軟かつ迅速に対応することで持続的な事業成長を目指していく。

C. 【機器製品部会及びトランクルーム部会 報告】

本日は9社13名の出席をもちまして、各社の取扱状況や業界動向について意見交換を行いました。当部会加盟企業の主な取扱品目は、金属製品、電気機械、その他機械、繊維系製品、雑品・雑貨及びトランクルームとなり、多岐に渡ります。

1. 協会加盟の事業者動向について

令和8年度第1四半期（4月～6月）の協会加盟事業者の動向についてご報告いたします。前回の品目部会でご報告いたしました第3四半期では全体的に取扱量が大きく縮小しておりましたが、今期は品目ごとの差がより鮮明となりました。

品目別では、金属製品が入庫前年比242%、織物製品が190%、その他日用品が150%と大きく増加しております。また、その他機械についても108%と前年を上回り、比較的堅調に推移し

ております。一方で、電気機械は入庫 46%、出庫 47%と前年を下回る結果となりました。ただし、前回もご報告しましたとおり、これは昨年度まで大きな取扱数量を占めていた西濃シェンカー様の退会による影響が主な要因であり、実態以上に減少幅が大きく表れている状況です。また、現在の物流業界を取り巻く環境としては、中東情勢や為替変動など先行き不透明な要素が続く一方、サプライチェーンの見直しや在庫戦略の変化により、荷動きは業種ごとに濃淡がみられる状況となっております。

2. 営業関係

営業面では、LED 関連を取り扱う事業者からは、蛍光灯の 2027 年問題を背景に堅調な需要が続いているとの報告がありました。一方、輸入貨物を取り扱う事業者様についてはドレージ車両不足、配送関連のセンターを行っている事業者からは 2 t 車を中心に不足が続いているとの声を聴くことができました。このような車両不足・人手不足は本業である倉庫業にも影響が懸念されるという声を聞くことが出来ました。また、取り扱い品目としてレアメタル・半導体があげられました。近年の特徴ともいえる動きと感じました。

3. トランクルームについて

本日、トランクルーム事業者様の出席は 1 社でしたが、取り扱いを中止していることから、トランクルーム業界のトピックについての報告とさせていただきます。

市場は引き続き拡大傾向にあり、近年は個人利用に加え、EC 事業者等の法人利用も増加しております。また、スマートロックやオンライン契約など無人運営化、いわゆる DX が進んでおり、業界全体として利便性向上と効率化が進んでおります。今後も安定した市場拡大が期待されております。

D. 【化学品部会 報告】

本日の化学品部会は、14 社 20 名が出席し上半期と直近の状況報告に加え、意見交換を行いました。

会員企業様の多くは、化学製品・合成ゴム・石油製品・塗料などを取扱っており、これらを主として報告いたします。

1. 上半期と直近の状況

年間を通した取扱量は、会員企業の各社様により若干の差があるが、大凡前年比で横這いという報告が多かった。前半は中東情勢の影響が懸念されたが大きな落ち込みがなく、後半は復調してきた感が強い。

また、前半と比較し、後半には稼働と生産量が平常に戻ったように感じられるが、多くの企業様から、荷役と保管に分類すると保管は満床だが荷動きは芳しくなく、荷役量が減少したという報告があった。

下半期は年末に向け荷主企業様の在庫増しの声あり、荷役量も増加して行くことが期待される。更に、本年当初に発生した中東問題と海外輸送の混乱から、お客様の生産品にも影響があると思われ、汎用品から高機能品への移り変わりが想像される、との声があった。直近で発生した豪雨災害により道路の寸断、思いがけない渋滞等により輸配送の非効率化が話題となり、道路を含めたインフラの復旧が心待ちされる。

2, トピックス

(1) 交通・輸配送

豪雨災害により道路の寸断、幹線道路の渋滞等により迂回ルートを選択しなければならず、普段より時間を要し遠距離輸送となるケースが増えている報告があった。

また、緩和されつつあるが、豪雨直後は木更津・袖ヶ浦方面において通勤時間帯の渋滞が酷く、就業時間に間に合わない従業員がいたと一部の企業様から報告あった。

(2) 人材採用

特にF/Lオペレーターとドライバーの要員不足が目立つ。募集に対し応募数が足りていても、高齢者の応募が多く採用に繋がらないケースが増えているとのこと。結果、募集を満たさない企業様が数社おり、苦慮していると報告があった。

また、中堅・若年層の応募があっても、仕事内容により適合が難しい場合があり、各企業様毎の努力が続いている。

千葉県倉庫協会のホームページ

<http://www.soukoweb.jp/chiba/index.htm>

① 事務局からのお知らせ

② 会員のページ （毎月の残高報告）